

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）の補助事業完了理由書

平成28年〇〇月〇〇日

〇〇大学〇〇学部・教授 〇〇 〇〇 [印]

平成28年10月14日付けで完了した科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）の補助事業については、次のとおり当初の研究計画における到達目標を達成しています。

<p>(1) 完了した研究課題について、以下を記入</p> <p>①当初研究期間、②年度毎の請求額（予定額含む）、③年度毎の実使用額</p> <p>① 平成27年度～平成29年度 ③ 平成27年度：1,300,000円</p> <p>② 平成27年度：1,300,000円 平成28年度： 650,000円</p> <p>平成28年度：1,300,000円 平成29年度： 0円</p> <p>平成29年度：1,300,000円</p>
<p>(2) 当該研究課題の研究計画調書に記載した到達目標</p>
<p>(3) 具体的な研究経過・成果など、当該目標の達成状況（雑誌論文名等を含む）</p>

【参考：平成29年度の応募研究課題】

研究種目名	若手研究（A）	審査区分	—	細目名（細目番号）	□□□□（〇〇〇〇）
研究課題名	△△△△に関する研究				
応募経費（千円）	計 15,000 (内訳：H29 5,000 H30 4,500 H31 3,500 H32 2,000 H33 —)				

様式 U-1-2 別紙 〔作成上の注意〕

1. この補助事業完了理由書は、研究が予想以上に進展し、研究課題の当初の到達目標を既に達成したため、研究種目を変えて更なる研究発展を目指す場合に、研究代表者が様式U-1-2「補助事業完了届」に添付し、研究機関を通じて平成28年10月21日（金）（**必着**）までに日本学術振興会研究事業部研究助成第一課に提出すること。
2. 「（1）完了した研究課題について」欄の「②年度毎の請求額（予定額含む）」、「③年度毎の実使用額」欄には、直接経費と間接経費の合計額を記入すること。
3. 「（2）当該研究課題の研究計画調書に記載した達成目標」欄には、応募の際、研究計画調書に記載した達成目標を簡潔に記入すること。
4. 「（3）具体的な研究経過・成果など、当該目標の達成状況」欄には、初年度以降、当該研究をどのように遂行し、その結果どのような成果を上げて目標を達成し、研究を完了することができたのかを具体的に記入すること。なお、研究成果を雑誌論文等として発表している場合は本欄に記入すること。
5. 「参考：平成29年度の応募研究課題」欄には、平成29年度に新たに応募する研究課題の「研究種目名」、「審査区分」、「研究課題名」、「細目名（細目番号）」、「応募経費」について、正確に記載すること。